



やましな通信 12月号

2018年



やましな訪問看護リハビリステーション
WWW://yamashina-ho.com/ ☎ 050-6865-7757

訪問看護におけるリスク管理を考える



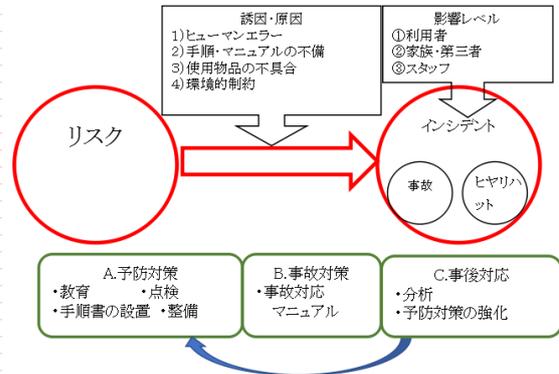
去る10月20日の期首経営方針発表会において、リスク委員会の霜島委員よりリスクマネジメントの考え方について発表がありました。その概要をまとめましたので紹介します。

在宅ケアにおけるリスクの特徴とリスク管理の目的

在宅ケアにおいては、利用者の年齢や疾病、障がいの幅が広く、守備範囲が多岐にわたること、原則個人一人での対応が求められることが特徴的である。また、利用者の疾患・感染症等の情報も限られており、連携機関も多い。移動中の事故もあり、巻き込まれることのリスクも無視できない。こうしたなかで、リスクマネジメントの目的は、第一に利用者や家族の命を守り、QOLを向上することである。また、スタッフの命を守り、安心してサービスを提供できるようにすることと同時に質の高いサービスを提供することも重要である。結果として、信頼を築き、経営を守っていくことにつながっていく。

リスクマネジメントをどう進めていくか

品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法として使用されるPDCAサイクルを応用する。全体像を図で示せば次のようになる



(1) リスクからインシデントに発展するまでには、原因が存在する。原因を大まかに分けると以下の4つに分類される。

- ①ヒューマンエラー（人間だから犯すエラー）
- ②手順・マニュアル等の不備
- ③使用物品の不具合（医療機器・ケア用品など）
- ④環境的制約（物理的なもの・時間など）

(2) 被害者と影響レベル

事故につながる前に気づいた事柄を「ヒヤリハット」、起こってしまったものを「事故」として、全体をインシデントという。起きてしまった「事故」の被害者を

- ①利用者 ②家族・第三者 ③スタッフ・ステーションと分類する。

裏面に続く

「やましな」おすすめのお店

ビストロ 和レコルト【われこると】

北海道から看護師さんが当ステーションの見学に来られ、その日の夕食を一緒にすることになり、選んだお店がここ、鎌ヶ谷駅から歩いて2分ほどのところにあるおしゃれなビストロ「和レコルト」です。「お箸で食べれるフレンチ」という看板で以前から気になっていたお店でしたが入ったのは初めてでした。こじんまりしたお店の中は、座敷とカウンターの席があり、私たちはカウンターの席に座りました。ディナーのメニューは、メインディッシュを二つ選べるコース料理となっていて、私は牛モモのステーキとおすすめパスタ、北国の看護師さんは、ブリのカルパッチョとハンバーグドリアをチョイス。共に前菜のみずみずしい鎌倉野菜と牡蠣のコンフィから始まり、あったかジャガイモのスープで暖まった後はメイン料理です。オーストラリア産の牛のモモ肉はやわらかくてとってもジューシー。デザートのお芋と柿のスイーツも甘みを抑えてあって自然素材の美味しさを楽しむことができました。ランチのメニューも充実しているようなので、次はお昼に来ようと思います。 AT

「和レコルト」鎌ヶ谷市道野辺本町2-1-19 TEL 047-440-8757
営業時間：11:30~14:00 17:00~23:00 定休日：火曜 駐車場なし



鎌ヶ谷駅のすぐ近く



お座敷とカウンター



モモ肉のステーキ 手前の白い岩塩を削ってお好みの味に



ブリのカルパッチョ



あったかスープにフランスパン

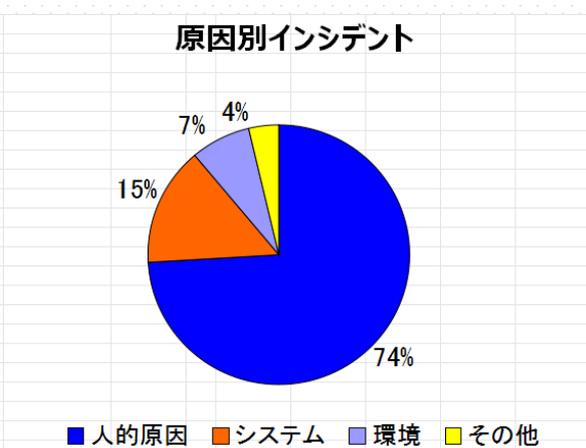


甘みを抑え素材を活かしたスイーツ

影響レベルについては利用者の身体に及ぼす影響の度合いとスタッフステーションが受ける影響度の度合いにより5段階で考え評価する。

当ステーションの事例分析

当ステーションは平成26年に発足以来3年半を経過しているが、幸いにして重大事故は発生していないが、軽微なクレームにつながったいくつかのインシデントと、事故には至らなかったヒヤリハットは報告されている。その原因を分析するとヒューマンエラーが78%とほとんどを占めており、手順・マニュアルの不備が15%、環境要因が7%となっている。影響度はいずれも低かった。



リスクマネジメントの要—予防対策

過去のインシデント分析をうけて、当ステーションはマニュアルが不備とされた要因については、すでに見直しを行い整備しているが、これからも予防対策の要となるマニュアルについては、現実を踏まえて常に改善していくことが求められている。

ヒューマンエラー対策—風通しのよい職場を！

ステーションの中で、お互いに注意しにくい雰囲気を作り出していないか常にチェックする必要がある。「先輩には言いにくい」「言っても仕方がない」「自分が悪く思われるのは嫌だ」といった雰囲気のなかでは、看護師・セラピストとしての成長は望めない。一人で訪問する仕事だからこそ、自分だけでは気づけないことがたくさんある。なんでも気持ちよく言い合い、情報を共有することが、プロとして一緒に働く仲間、そして自分自身を守ることもつながります。

ヒューマンエラーは排除ではなく管理・統制を！

ヒューマンエラーは避けられない。それは私たちが人間だからだ。だからこそヒューマンエラーが発生しないように、また起きたとしても最小限の事故に抑えられるようにリスクをマネジメント（管理・統制）することが活動の最大のポイントとなる。エラーは必ず起こるという前提に立ち、どの段階でエラーが起きたのかを考え、次の対策を立てれば、再発防止につながる。事故の当事者のみの問題として、「次は気を付けてください」「あの人は仕方がない」という一言で終ることなく、何が誘引となり、そのヒューマンエラーが事故へと発展したのかをスタッフ全員で考え、共有できる職場にして行こう。そして、一人ひとりがリスクを認識してケア・作業に取り組みもう。リスクに対する感性を磨き、専門職、プロとしての自覚をもって取り組んでいこう！

ヒューマンエラーを減らす10の方法

1. 声に出す（呼称確認）：視覚刺激を音声刺激に変える
2. 指を指す（指さし確認）：意識の焦点化・集中化をはかる
3. 色を付ける（カラーマーク）：感覚刺激を働かせる
4. 他者に見せる（ダブルチェック）：思い込みによるエラーを確認する
5. 時間を与える：余裕をもって作業ができる
6. よく考える：じっくりと自分の記憶を照らし合わせる
7. ポスター（手順書）を張る：注意を常に誘発させる
8. 場所を変える：物理的単純エラー、パターン認識エラーをなくす
9. 事例を調べる：当事者責任を体験できる
10. インシデントレポートを読む：エラーの心理的不安を軽減する

<出典> 釜英介：「リスク感性」を磨くOJT, p86, 日本看護協会出版会, 2004

以上

リンパマッサージ勉強会開催



11月15日（木）夕方より当ステーション2階の会議室で、くぬぎ山ファミリークリニックの澤村寛看護師を講師としてお招きして、リンパマッサージの勉強会が行われました。これは、リンパ浮腫に悩む患者の症状を改善しADLを向上させる効果があるとして、訪問看護の世界でも話題となっているリンパマッサージを実践的に勉強しようと、当ステーションの谷川管理者の呼びかけで、市内の訪問看護ステーションと共同で開いたものです。市内の看護師15名が参加し、メモを取ったり、実践場面の写真を撮ったり、質問したりで、関心の高さが伺えました。

TEL 050-6865-7757
 FAX 050-6865-7758
 MAIL yamashina.houmon@yamashina-ho.com
 ADDRESS 〒273-0123 鎌ヶ谷市南初富6-5-65

 **やましな**
 訪問看護 リハビリステーション

(事業所番号：1262690089)